

第18回土木構造物検討会 議事録

1. 開催日時：平成26年5月12日（木） 14:00～17:05

2. 開催場所：日本電気協会 4階 D会議室

3. 出席者（順不同，敬称略）

出席委員：谷（防災科学技術研究所），山崎（首都大学東京），衣笠（東京工業大学），
原口（関西電力），大友，松山（電力中央研究所），鈴木（原子力安全推進協会），
藪（北海道電力），加藤（東北電力），高尾（東京電力），河村（中部電力），
中村（北陸電力），高橋（四国電力），生貞（九州電力），若松（電源開発）（計15名）
代理出席：中野（日本原子力発電・入谷），由利（中国電力・清水），（計2名）
常時参加者：秦，天野（中部電力），蒲池，中村（関西電力）（計4名）
オブザーバー：久松，内野（中部電力）（計2名）
事務局：井上（日本電気協会）（計1名）

4. 配付資料

資料 No. 18-1 第17回土木構造物検討会議事録（案）

資料 No. 18-2-1 JEAC/G4601 改定の基本方針について（土木構造物検討会）

資料 No. 18-2-2 JEAC/G4601 改定スケジュール案（土木構造物検討会）

参考資料－1 実用発電用原子炉及びその附属施設の位置、構造及び設備の基準に関する規則の
解釈（抜粋）

参考資料－2 敷地内及び敷地周辺の地質・地質構造調査に係る審査ガイド

参考資料－3 基準地震動及び耐震設計方針に係る審査ガイド

参考資料－4 基準津波及び耐津波設計方針に係る審査ガイド

参考資料－5 基礎地盤及び周辺斜面の安定性評価に係る審査ガイド

5. 議事

(1) 代理出席者の承認及び会議定足数の確認

事務局から，代理出席者2名の紹介を行い，規約に従って主査の承認を得た。また出席者は現時
点で16名で，会議開催条件の「委員総数の2/3以上の出席(12名以上)」を満たしていることを確
認した。

(2) 前回議事録の確認

事務局より，資料 No. 18-1 に基づき第17回土木構造物検討会議事録(案)が紹介され，誤記を修
正の上，正式な議事録にすることが挙手により承認された。

(3) JEAC/G4601 改定の基本方針及びスケジュール案について

原口幹事より、資料 No18-2-1、2 に基づき JEAC/G4601 改定の基本方針及びスケジュール案について説明された。

また、各章の作業会より改定案及びポイントについて説明された。

主な質疑は下記の通り。

【JEAG 第 2 章地質・地盤調査】

- ・規制庁の審査の中での JEAG の役割及び記載方法等について議論があった。

(記載内容の重み付けと段落分け、審査結果をバック資料として添付等)

- ・将来活動する可能性がある断層が無いことの確認、津波波源となる活断層、活断層の評価期間、深層防護について、それぞれの記載の方法について議論があった。

【JEAG 第 2 章地質・地盤調査 2.4 地盤調査・試験】

- ・弱層、断層、破碎帯等の用語の定義について、他と整合が取れていないものがあるので、統一する方向で見直しを検討する。

【JEAG 第 3 章 基礎地盤及び周辺斜面の安定性評価】

- ・用語の定義の記載内容について、誤解されない内容で分かり易く記載するよう議論があった。
- ・建屋基礎底面の傾斜の記載について議論があった。他の検討会にも関係するので調整する。

(実態に沿った記載)

- ・ニューマーク法は審査ガイドに記載が無い。オリジナリティがあり、JNES の資料に詳しく記載されているので添付する。
- ・地殻変動の参考文献はこの記載にそぐわないので別のものに変更すること。
- ・重大事故対象施設の地盤と斜面の条文への対応について議論があった。

(JEAC の第 2 章で検討中、その結果により決定)

【JEAG 第 4 章 津波水位評価】

- ・津波堆積物の調査についての記載は、第 2 章か第 4 章かの議論があった。第 4 章で記載し、参考文献として JNES の手引きを引用する。

【第 5 章 屋外重要土木構造物の耐震設計】

- ・津波防護施設の荷重の重畳の考え方について、審査ガイドにはあるが耐震 JEAC には記載されていないとの議論があり、耐津波 JEAC に記載があり参照することとしている。

主査と幹事より、6 月 9 日の耐震設計分科会及び 6 月 20 日の原子力規格委員会への中間報告の資料については、今日の資料を基に説明用資料を作成することになる。ただ改定内容についても審議いただくよう、重要なものを 3 件ほど提案することで考えている。

6. その他

(1) 次回検討会の開催予定

7 月 23 日 (水) 13:30~17:00 に開催する。

以 上